

令和2年5月14日
令和2年5月21日改定1
日本原子力研究開発機構
敦賀廃止措置実証部門
敦賀廃止措置実証本部
高速増殖原型炉もんじゅ

令和元年度 高速増殖原型炉もんじゅ総合防災訓練（2/18）における課題対応について

1. はじめに

令和2年2月18日に実施した高速増殖原型炉もんじゅ（以下「もんじゅ」という。）の総合防災訓練時の課題を抽出した。抽出された課題に対し、改善に向けた取り組みについて検討する。

2. 抽出した課題

【課題①】（もんじゅ及び敦賀実証本部における課題）

即応センターERC対応ブースは、ERCに対して速やかに現地の情報を提供できなかった。

【原因】

- (1)（もんじゅ）事象進展対策シートの多くの記載項目を手書きで埋めていたため、事象進展により次に実施する対応操作の考え方や戦略を現地対策本部から機構対策本部（敦賀）に理解させることが出来なかった。
- (2)（敦賀実証本部）他電力の良好事例を取り入れた自主的な改善として、現地対策本部が機構TV会議システムで発話した内容を要約しERC対応ブース内のホワイトボードに記載することにしたが、結果的に上手くいかず、ERC対応ブースTV会議情報収集担当者の負担が増加したことで、これまで出来ていた現地対策本部の発話メモによるERC対応ブース内への情報共有が疎かになってしまった。
- (3)（もんじゅ）上記（2）により、通常よりも現地対策本部ホットライン担当者への質問が多くなり、質問に対して速やかに回答することができなくなった。

【対策】

- (1)（もんじゅ及び敦賀実証本部）
 - ①対策や戦略に関する理解について、もんじゅと敦賀実証本部間で統一を図るため、作業内容を埋めた事象進展対策シートを作成し災害対策資料として配備する。このことにより、現地対策本部においては、今後実施する対応操作や戦略を機構対策本部（敦賀）に確実に伝えるとともに、誰が使っても同じ確認が出来るように伝達の品質を向上させる。
 - ②事象進展対策シートの活用方法を確実にするため、もんじゅと敦賀実証本部合同で、もんじゅ情報専任者、機構対策本部（敦賀）情報専任者やERC対応者など、事象進展対策シートを活用する者に教育を行う。
- (2)（敦賀実証本部）現地対策本部の発話メモ、ホワイトボードの記載内容を確実にERC対応ブース内で共有するため、ERC対応ブース内の役割分担の見直しや要素訓練による担当者の習熟を図る。
- (3)（もんじゅ）現地対策本部ホットライン担当者の補佐を選任し、質問が多くなった際にサポート

できる体制を整える。

【課題②】（もんじゅ及び敦賀実証本部における課題）

現地対策本部の情報専任者は、ブリーフィングで機構対策本部（敦賀）に事象収束に向けた戦略方針をうまく伝えられなかった。

【原因】（課題①（1）と同様）

- ・（もんじゅ）事象進展対策シートの多くの記載項目を手書きで埋めていたため、ブリーフィングを実施するまでの情報共有の中で、事象進展により次に実施する対応操作の考え方や戦略を現地対策本部から機構対策本部（敦賀）に理解させることが出来なかった。

【対策】（課題①（1）と同様）

- ・（もんじゅ及び敦賀実証本部）
 - ①対策や戦略に関する理解について、もんじゅと敦賀実証本部間で統一を図るため、作業内容を埋めた事象進展対策シートを作成し災害対策資料として配備する。このことにより、現地対策本部においては、今後実施する対応操作や戦略を機構対策本部（敦賀）に確実に伝えるとともに、誰が使っても同じ確認が出来るように伝達の品質を向上させる。
 - ②事象進展対策シートの活用方法を確実にするため、もんじゅと敦賀実証本部合同で、もんじゅ情報専任者、機構対策本部（敦賀）情報専任者やE R C対応者など、事象進展対策シートを活用する者に教育を行う。

【課題③】（もんじゅにおける課題（平成30年度の防災訓練で抽出された改善点①の継続））

現地対策本部は、関係機関へ「警戒事態該当事象発生後の経過連絡様式」、「応急措置の概要連絡様式（原子炉施設）」をF A X送付する際にルール通り補足説明図面を添付できなかった。

【原因】

- ・通報様式チェックシートに補足説明図面の添付有無をチェックする項目がなかった。

【対策】

- ・通報様式チェックシートに補足説明図面の添付有無をチェックする項目を追加しチェック機能が働くようにする。

3. 「その他」に関する主な改善事項

(もんじゅ)

なし

(敦賀廃止措置実証本部)

No.	課題分類	課題	原因	対策
1	情報提供	<p>機構のTV会議システムにおいて発話の統制が取れていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発話が重なる ・時刻の発話がない ・復唱がされない 	<ul style="list-style-type: none"> ・発話についてのルールが徹底されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発話については、「現地対策本部」が優先であることを発話者に教育する。 ・要素訓練を通して発話者の習熟を図る。
2	情報提供	<p>ERCとのプラント情報の共有において、本年度から導入したERSSを活用できなかった。</p>	<p>①ERSSの使用方法については、ERC対応者に事前に教育を行ったが、ERSSを活用したERCとの情報共有の方法についての教育・訓練が十分で無かった。</p> <p>②ERC対応者がERSSを使ってERCと情報共有を図るという意識が十分で無かった。</p>	<p>①②ERC対応者に対して、ERSSを使った情報共有について教育し、要素訓練を実施する。</p>